2010年5月1日

司祭のてがみ

No.35

カトリック行橋小教区 ： 主任司祭　ベリオン･ルイ神父

ごあいさつ‥

2002年4月7日に山元 眞神父さまによって初めて「司祭のてがみ」が書かれその後、定期的にその手紙が皆さんの家庭に届きました。赴任されたばかりの山元神父さまは当時49歳だったと思うと 69歳になろうとする私は、戸惑いと不安を隠すことができません。皆さんにとってはなおさらのことでしょう。皆さんの共同体に仕えるに当たって若返りも新鮮味ももたらすことのできない私は焚き火の灯を照らし続けるために、せめて薪を割り運ぶことに協力することが出来ればと心の中で密かに思い巡らしています。

行橋小教区創立50周年のお祝いに参加させていただいた時、いつか自分がこの教会に赴任するとは想像できませんでした。神のみはからいは実に測り知れないものですね。しかし自分の人生を振り返り、今までの神の導きのおかげでとても幸せに満ちた日々を送ることが出来たことを思うと、皆さんとの今からの歩みも祝福されたものになることを確信しています。

山元神父さまの夢を受け継いで、皆さんと心と力を合わせて、私も“皆の教会”である開かれた教会、温かい兄弟共同体、神の愛と慈しみを放つ共同体、イエス･キリストと福音への証しに燃える共同体作りに協力させていただきたいと思います。

どうか皆さん、温かい目でこの私を見つめ、寛大な理解を示して迎えてくださいますよう、心からお願い致します。

ところで、この「てがみ」を書いている新しい筆者は誰なの？どんな人ですか？と思う方がおられるかもしれません。

照れ臭く感じながらも簡単に自己紹介させていただきます。

信仰深い両親から69年前に、6人兄弟の長男として西部フランスのブルターニュ州にある港町ナントで生まれました。

フランス海軍から宣教師へ、大西洋艦隊から太平洋に面している日本へ。

私の青春時代をこのように手短に要約することが出来るかもしれません。

イエス･キリストと、福音との出会いと導きのおかげで。パリ･ミッション会の大神学院を卒業し、1967年12月23日 イエス･キリストの教会の司祭とされ、1968年9月7日に日本の地を初めて踏みました。

〒824-0006 行橋市門樋町８－５／TEL.0930-22-0805／FAX.22-0816／http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/

2年間、東京で日本語を勉強してから福岡教区に派遣され、戸畑、小倉、門司のそれぞれの教会で宣教司牧に励みました。
しばらくの間パリ・ミッション会の本部に呼び戻されましたが、待望していた日本に再び戻り、水巻、黒崎教会を経て、2010年4月11日に行橋と豊津教会へ派遣されました。

今から皆さんと人生を共にすることになりました。今というときに《星の王子さま》という本の中に描かれている、星の王子さまとキツネとの出会いの時に交わされた会話の言葉が頭を過ぎります。「おれ、あんたと遊べないよ。飼いならされちゃいないから」と言ったキツネに、星の王子さまは「“飼いならす”ってそれ、なんのことだい？」と尋ねると、キツネは「よく忘れられていることだね。『仲よくなる』ってことさ」と答えます。「仲よくなる？」と星の王子さまが問いただすと、「おれの目から見るとあんたは、まだ今じゃ、ほかの十万もの男の子と別に変わりない男の子なのさ。だからおれは、あんたがいなくたっていいんだ。
あんたも、やっぱりおれがいなくたっていいんだ。あんたの目から見ると、おれは十万ものキツネと同じなんだ。だけどあんたがおれを飼いならすと、おれたちはもうお互いに離れちゃいられなくなるよ。あんたはおれにとってこの世でたったひとりのひとになるし、おれはあんたにとって、かけがえのないものになるんだよ…」とキツネは答えました。
今からの私たちの関わり合いと交わりはそのような貴重なものになるために全力を尽くし心をこめて皆さんに奉仕させていただきたいと思います。この「司祭のてがみ」が、そのささやかなしるしのひとつになれば幸いです。
どなたでも教会にも、司祭館にも、気兼ねなくお越しください。
楽しみにしてお待ちしております。
行橋と豊津の皆さん、どうかよろしくお願いいたします。